

[13] 延岡市小体連
(学校数27校 児童数5974名)

I 年間事業

	事業名	事業内容	会場
5月 7日 (月)	第1回理事会	○ 会計予算審議 ○ 活動計画及び事業計画審議 ○ 役員選出	北浦小
8月22日 (木)	第2回理事会	○ スポーツフェスタについての審議 ○ 授業研究会事前研	川中コミュニティセンター
11月12日 (月)	第3回理事会	○ 研究授業 6年ネット型 (ソフトミニバレー) ○ 授業研究会	東小
12月5日 (木)	スポーツフェスタ 前日準備	○ 会場設営 ○ 役員打合せ	西階陸上競技場
12月6日 (金)	令和6年度 延岡市小学校 スポーツフェスタ	○ 陸上、野球、サッカー、タグラグビー、生涯スポーツ、ホッケー、50M走	西階陸上競技場及びその周辺の競技場
1月21日 (火)	第4回理事会	○ 研究授業 4年ネット型 (ソフトミニバレー)	東海小
2月18日 (火)	第5回理事会	○ 年間事業反省	北浦小

II 事業部のあゆみ

1 スポーツフェスタ

- (1) 大会名 令和6年度延岡市小学校スポーツフェスタ
- (2) 期 日 令和6年12月 6日 (金)
- (3) 会 場 西階陸上競技場及びその周辺の競技場
- (4) 参加者 延岡市立の小学校に通う6年生児童 (一部5年生児童を含む)
- (5) 種 目 ○ 50M走及び生涯スポーツ (全員)
○ 陸上、野球、サッカー、タグラグビー、ホッケー (選択)
- (6) 実施方法 ○ 地域の方々を中心に講師を依頼し、様々なスポーツに親しむ。
○ 延岡市の小学校27校を集め、1日開催で行う。
- (7) 反省 (成果と課題)
 - 今年度も地域の方を中心に指導者として協力していただき、充実したスポーツフェスタであった。
 - 参加している児童の多くが楽しそうに運動する様子が見られた。
 - 今年度より「ホッケー」の会場として WaiWai アリーナを借用し、延岡市のスポーツ施設を活用したより充実した会となった。
 - 今年度もインフルエンザの流行があり、学年閉鎖や学級閉鎖の影響で参加できない学校があった。

Ⅲ 研究部の歩み

1 本年度研究主題

生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための
資質・能力の基礎を育む体育科学学習
～児童一人一人の思考力、判断力、表現力等を養う授業の創造と展開～

2 主題設定の理由

社会の急速な変化や先の予測困難な時代の中で、今、学校教育では、子どもたちが様々な変化に主体的に向き合い、他者と協力して課題解決していく力や、様々な情報を見極め、理解する力、情報を結び付けて新たな価値を見出す力、複雑な状況変化の中で目的を再構築する力の育成が求められている。延岡市小体連では、昨年度、主体的・対話的で深い学びを視点として授業改善に取り組んだ。その成果として、意欲的に運動に親しむ中で技能を向上させていく児童の姿を見ることができた。また、GIGA スクール構想により、児童に一人一台タブレットが整備され、昨年度の研究においても有効に活用することができた。

一方で、思考力・判断力・表現力を育む授業の在り方については課題を残すところとなった。ICT の活用についても、学習に有効な様々な機能やサービスがあるものの、それらを十分に活用できていない状況である。そこで、本年度は「生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力の基礎を育む体育科学学習～児童一人一人の思考力、判断力、表現力等を養う授業の創造と展開～」を研究主題として研究を行っていく。具体的には、昨年度から「知識構成型ジグソー法（以下、ジグソー法）」による協調学習を用いた体育科の授業実践を行っている。特に思考力・判断力・表現力に育成を目指した授業改善を行っていく。また、来年度に控えた「宮崎県学校体育研究大会延岡大会」に向けて、延岡市内の小学校、中学校、高等学校、特別支援学校で共通して「課題発見に焦点を当てた手立て」「共生の視点を生かした授業の展開」にも取り組んでいく。

3 研究の構想（研究の仮説、研究内容）

（宮崎県小学校体育連盟研究主題）

生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための
資質・能力の基礎を育む体育科学学習
～児童一人一人の思考力・判断力・表現力等を養う授業の創造と展開～

【研究仮説】

児童一人一人の思考力・判断力・表現力等を養うために、協調学習（ジグソー法）を用いた体育科学学習の在り方に関する授業研究及び、「課題の発見」に焦点をあてた授業の展開、「共生の視点」を生かした授業の展開を意識した授業研究を行っていくことで、生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力の基礎を育むことができるであろう。

【研究内容①】

- 協調学習（ジグソー法）を用いた体育科学学習の在り方に関する授業研究

【研究内容②】

- 「課題発見」に焦点をあてた授業の展開
- 「共生の視点」を生かした授業の展開

4 研究の実際

(1) 【研究内容①】 知識構成型ジグソー法とは？

延岡市で研究に取り組んでいる「知識構成型ジグソー法」について説明したものが以下の資料である。

2 研究の実際

「知識構成型ジグソー法」とは・・・？

5つのステップ

ステップ1：課題について各自が自分で考えをもつ
ステップ2：エキスパート活動
ステップ3：ジグソー活動
ステップ4：クロストーク
ステップ5：課題についての答え(考え)をもう一度自分で出す

2 研究の実際

「知識構成型ジグソー法」とは・・・？

ステップ1 課題について各自が自分で考えをもつ

一人では十分な答えが出ない課題
(粘り強く取り組める課題)
に対して、一人ひとりがまず自力で考えてみる。
(予想を立ててみる。)
(難しさを感じる。)

2 研究の実際

「知識構成型ジグソー法」とは・・・？

ステップ2 エキスパート活動

異なる角度からの答えにつながる部品をもとにエキスパートグループ(小グループ)で考える。
＊3～4人

資料の中身を理解し、自分の言葉で説明できるように準備する。

2 研究の実際

「知識構成型ジグソー法」とは・・・？

ステップ2 エキスパート活動

ステップ3 ジグソー活動

3つの部品を統合的に活用して、課題にチャレンジ!

伝えたい

聞きたい

2 研究の実際

「知識構成型ジグソー法」とは・・・？

ステップ4 クロストーク

ジグソー活動で作上げた答え(考え)を教室全体で交流する

そこはそう考えるといいんだ!

この説明が納得できる!

他のグループから学ぶことができる

2 研究の実際

「知識構成型ジグソー法」とは・・・？

ステップ5 課題についての答え(考え)をもう1度自分で出す

学習者

一連の学習で考えたことを自分なりに統合し、もう1度自分の言葉で表現する。

(2) ジグソー法を用いた体育科学習の在り方に関する授業研究

令和6年11月12日(火)に授業実践を行い、研究仮説の検証を行った。

領域	単元名	学年	授業者
ゲーム(ネット型)	ソフトバレー	6学年	東小学校 藤井 航平 教諭

検証学級の児童は、高学年になってからはネット型の学習をしていない。1学期に行ったバスケットボールの学習では、ボール操作がうまくできず、ゲームに参加できない児童が数名いた。そのためソフトバレーボールの学習においても、基本的なボール操作の技能が身に付いておらず、みんなが参加できるルールでなければゲームに積極的に参加できない児童がいると考えられる。また、チームで作戦を考えた経験は多くなく、第5学年時のバスケットボールの学習の際に作戦を考えたのが最後である。

1学期のマット運動の学習では、自分の立てた目標に向かって実行・振り返りを繰り返していくことで、積極的に学習に参加し、自分の課題を見つけながら技能を向上させていった。

そこで本単元の指導にあたっては、オーバーハンドパスやアンダーハンドパス、サービス、アタックといったボール操作の技能を身に付け、チームに合った作戦を考えながら簡易化されたゲームを行うことができるようになることをねらいとする。そして、使用するボールをビーチボールにすることでボール操作が容易になるようにし、作戦が実行しやすくなるようにする。

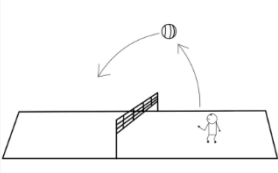
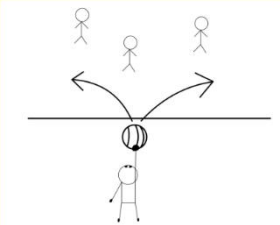
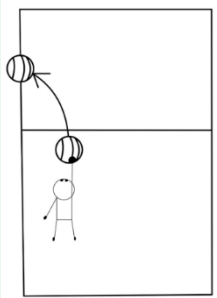
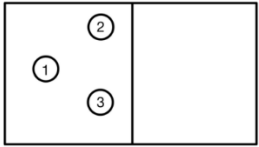
導入では、ソフトバレーボールのルールを説明したり試しのゲームを行ったりして、ソフトバレーボールの基本的なルールを理解させる。その際、初めは易しいルールでゲームを行うことで、ソフトバレーボールに対して嫌な感覚をもたせないよう配慮する。基本的なボール操作については単元を通して練習を行っていき、技能の向上を図る。

展開では、ゲームを通して個人やチームのよさや課題を見つけ、さらにゲームの中で活躍するためにはどうすればよいかを考えさせる。そして、考えたことを達成するために個人やチームで練習し、再びゲームを行うことで技能につなげていく。また、自チームのみで考えていたことをクラス全体に広げることで、一人一人の考えの深まりを図り、クラス全体で上手になろうという意識を醸成できるようにする。

終末では、学習の成果を児童自身が感じたり仲間に見せたりすることができるようにするために、総当たり戦を行う。ここでも、実行・振り返りを基本の流れとする。

また、単元を通して、勝敗を受け入れる指導を行っていく。児童には、悪いところよりもよいところに目を向けるよう指導していくことで、負けたとしても自分や仲間のよい点や頑張りを認め、勝敗を受け入れられるようにしていく。

(3) 作成したエキスパート資料

①天井ボール作戦 ～相手に高いボールを打って返す作戦～  よいところ (+) 起こりやすいミス (－) どんな力が必要？	②ななめ作戦 ～相手コートに対してななめにボールを打ち返す作戦～  よいところ (+) 起こりやすいミス (－) どんな力が必要？
③狙おうラインぎわ作戦 ～相手コートのラインぎわギリギリを狙ってボールを打つ作戦～  よいところ (+) 起こりやすいミス (－) どんな力が必要？	④落ち着いて3回で返そう作戦 ～すぐに返さず落ち着いて3回ボールに触って返す作戦～  よいところ (+) 起こりやすいミス (－) どんな力が必要？

(3) 成果と課題

- ジグソー法を活用することで、全員が自分の考えや学んできたことを表現するとともに、友達の意見も真剣に聞き、自分達のグループに適した作戦は何かを話し合う姿が見られ、思考力、判断力、表現力等を働かせる姿を見ることができた。
- 今回検証を行ったボール運動の領域では、「自己やチームの課題を把握してそれらを解決するための作戦を考え、友達に伝える」という学習場面にはジグソー法が有効であることが分かった。
- 本検証授業は思考場面に重点をおいたものではあったが、運動量の確保についてはまだ研究を深める余地がある。体育授業の土台となるマネジメントの工夫などについて研究を深めたい。

(4) 【研究内容②】「課題発見」「共生の視点」に焦点をあてた体育科授業の展開

「課題発見」「共生の視点」に焦点をあてた体育科授業の展開については、3学期に検証授業を行う予定である。具体的には「課題発見ワークシート」や「体育授業の土台チェックシート(教師用)」などを作成して検証を行う予定である。

